

令和5年度 第2層協議体の報告

社会福祉法人 嘉麻市社会福祉協議会

総合相談・地域づくり推進係

係長 小川 史佳

協議体の開催状況

	参加者数	開催場所
稲築西	86名	行政区の公民館を使用（漆生中央、稲築才田、山野第二、漆生東、山野第一、漆生本村、口春、西岩崎公民館）
稲築東	109名	行政区の公民館を使用（藤見台、辻中箆、平第二、緑ヶ丘、鴨生町、平東、鴨生北町、銭代坊、鴨生第二公民館） 12月は積雪のため中止（枝坂公民館）
碓井	72名	行政区の公民館を使用（光代集会所、六四田集会所、下臼井東西部公民館、西郷公民館、碓井地区公民館、熊本集会所）
山田	80名	山田活性化センター、山田生涯学習館、白馬ホール 1月は積雪のため中止
嘉穂	78名	夢サイトかほ、旧宮野小学校、千手いこいの家、下牛隈公民館、足白公民館
全体会	19名	夢サイトかほ 「築上町ひとり暮らし高齢者等見守りネットワーク事業」 講師：築上町社会福祉協議会事務局長 及川 泉さん

協議体で出た困りごと・心配なこと①

①行政区のつながりに関すること

- 行政区への加入率が減っている
- 高齢化がすすみ、地域行事の開催や環境保全の活動が難しくなった
- 行政区が広く、情報の共有や連携が難しい
- 市政だよりが郵送されるようになり、情報交換の場がなくなった。また、「メリットがない」と組から抜ける人が増えた
- 個人情報保護の観点から、行政区長への名簿の提供が中止となって以降、転出入の情報が把握できず、行政区への加入や地域行事への参加の働きかけができなくなった → 団地やアパートなどは特に誰が住んでいるかわからない

協議体で出た困りごと・心配なこと②

②災害に関すること

- 避難所に行く手段がない
- 防災無線が聞こえない
- 山から泥水が流れ出ている場所があり、土砂災害の不安がある
- 溜め池や山があり、水害や土砂災害の危険性が高く不安
- 地域のつながりが減ったように感じている。災害時などのいざという時に助け合うことができるか心配

③空き家に関すること

- 空き家の草木が伸びており、通行時に危険を感じる
- 放置された空き家が朽ちており、危険な状況になっている
- 放置された空き家があり、防犯上の不安や火事の心配がある

協議体で出た困りごと・心配なこと③

④環境のこと

- 街路樹の根元が歩道を押し上げたり、枝が伸びており、歩行時に支障がある
- 草木に覆われて見えなくなった街灯がある
- 人が近くにいても出てくる猪が増え、襲われないか心配
- 猫に餌をあげる人がおり、野良猫が増えて困っている
- カラスや猫がゴミを荒らし困っている
- ゴミを不法投棄する人がいる

お決まりの困りごとは

- 買い物や通院のための移動手段のこと
- 電球交換や庭の草取りなどのちょっとした困りごと
- 大雨や台風時に避難所に行くことができない
- 災害のリスクが高い危険な場所がある
- 一人暮らしの高齢者の孤独死が心配
- 行政区に加入する人が減り、地域活動を継続するのが難しい

見守りの仕組みづくり

ゼンリンの地図を活用し見える化

色分け・・・水色 → 高齢者の一人暮らし

オレンジ → 空き家

緑 → 気になる人

黄 → 危険な場所（水害が発生しやすい場所、壊れている空き家
交通事故の多い場所、猪などが出現する場所等）

- 高齢者の一人暮らしや気になる方に誰が声をかけているのか、家族や親しくしている知人はいるのか、災害リスクが高まったときに避難誘導してくれる人はいるのかなどをみんなで共有
- ご近所さんだからよくわかる → 日ごろから意識していなければわからない
→ 誰が誰に声をかけているのか
→ 声をかけていなければどうするのかを話し合う

ゆるやかな見守り

- 頻発する災害
 - 日ごろから声をかけたり、気にかけてあえる地域にしたい
 - 平常時のつながりが大切
- そうは言っても、高齢者の一人暮らしや行政区に加入していない世帯が増え、かつ地域活動の担い手も不足している現状がある。
 - 役を持つ方や決まった方だけが行う活動ではなく、住民一人ひとりがお互いを思いやる気持ちを持って取り組む「ゆるやかな見守り活動」を地域に広げていきたい
- 見守る際に気をつけたいことをチェック方式で表にして配布

見守る際に気をつけたいこと

- カーテンがずっと閉まっている
- 夜になっても電気がつかない
- 電気が何日もついたまま
- 洗濯物が干したまま
- 新聞や郵便物がたまっている
- 外出している様子がない
- 何回も買い物に行っている
- ごみの分別ができていない、決まった曜日に出せていない
- 知らない人が出入りしている

などなど. . .

ある日の協議体で～B行政区～

- B行政区は、炭鉱が栄えた時代から住んでいる方がほとんどで、生活する中でお互いに声をかけあったり、気にかけてあう意識が広がっていた
- 協議体の中で、気になるAさんの話があがった（実はみんなも気になっていた）
- Aさん
自宅は古い長屋で、両隣は空き家。回りは草木が生い茂り、室内にはごみも散乱。
Aさんは、お酒が大好き。校区内に行きつけの飲み屋があり、自転車で出かけているが、最近足腰が弱り、転倒を繰り返している。栄養状態も悪く、心配した近所の方が救急車を呼んだが、乗るのを拒否したこともある。誰の助言も受け入れない（煩わしく感じている様子）
- 近所の方が、見かねて衣類や食事を差し入れてくれることもある
→協議体後に、民生委員、在宅介護支援センター、高齢者相談支援センター、社協職員が訪問
- Aさんの受け入れは悪いが、高齢者介護課の職員が、電話線にかかっている草木の伐採をNTTに依頼した

半年後の協議体で

- 区長さん、民生委員さん、在宅介護支援センターの声かけは続いている
- ご近所さんとの情報共有
- 気にかけてくれている地域の方からの情報
→行きつけの店がわかる

- Aさんの考えや価値観がある
- Aさんが困ったなと思うタイミングは必ずやってくる

みなさんの気づき

- 毎月1日、15日に地域福祉部のメンバーが公民館に集まり、1日は組費の集金袋を組長に手渡し、15日に組費を集金する場がある。
- 組長との情報共有の場になるため、組長に気になる方や心配な方の様子を聞く。→組に入らない人も無視できない。困っているようだったらきっと気になるはず。 . . .
- 介護保険サービスを利用しているからと言って安心しない。サービス事業所を知ること、その方を支援している方とつながることができる。
- 言うことを聞いてくれない困った人
→その人の生きてきた人生や価値観を大切にしながら、いざという時に手を差し伸べてあげることができたらいいな

チーム連携で支える

- 体調が悪そう
 - 在宅介護支援センターが調整し、民生委員と協力して受診に同行。
新しい病気が見つかり、足取りが悪くなった原因が分かった
- 在宅介護支援センターの職員と一緒に自宅を訪問
 - 新たな課題
 - 次の年金まで1か月以上　すでに所持金は5,000円
 - 自宅のなかにはゴミで足の踏み場もない状況
 - 公共浴場の職員から利用を拒否されており、1か月以上入浴していない。
- 地域のみなさんとどのように連携してAさんを支えていくのか？

緊急時は...

- ゆるやかな見守りは、その人を取り巻く地域での見守りの目を増やす効果があり、台風の接近が予想される際などの避難誘導にもつながる
- 平常時に異変があった際には、やはり民生委員や行政区長など地域のお世話役と言われる方々や、緊急時の連絡先や持ち出し品の場所などを把握している介護事業所、近隣住民の方々との連携が必要
- 嘉麻市社協としては、車の両輪として地域福祉の向上に取り組む民生委員のみならずと一緒に、緊急時に備えた安心カードの普及に取り組んでいきたいと考えている
- 安心カードの他にも、救急・緊急用本人記録カード、救急安心カードなどがある

安心カード

- 緊急時や災害時に備えて個人情報を把握することが目的となっており、ご本人同意のもと作成します。3枚複写で、ご本人、民生委員、嘉麻市社協がそれぞれで保管する
- 住所や名前、生年月日などの基本情報と、かかりつけの病院や緊急時の連絡先を記入する
- 特記事項には、利用している介護保険サービスの事業者や困りごと、気になることなどを記入する
- 個人情報を記入してもらうため、同意書欄に署名してもらう
- ご本人が体調不良やけがなどで救急搬送される際に、意識がなく情報が分からない時や災害リスクが高まった際の避難誘導や発災後の訪問活動などに役立つ
- 訪問活動のなかで、気になることや心配なことがあれば、校区担当の職員と解決に向けて一緒に考える

WinWin事業のとりくみ①

★就労的活動支援コーディネーターの役割

- 民間企業や団体等と連携しながら、高齢者等が特技や経験をいかして社会参加ができるようコーディネートする

★活動に参加する方

- これまでの経験や特技などをいかして社会とつながりたいと思っている方
- 自宅中心の生活から一歩踏み出したいと思っている方
- 活動中の事故に備えて、社協でボランティア活動保険に加入

WinWin事業のとりくみ②

- 市内の誘致企業7社に活動の場の協力を依頼
→広大な敷地を抱える企業がほとんどで、困りごとの多くは業者に依頼しており、協力してもらえたのはC社のみ
- Dさん
仕事を見つけないが71歳と年齢が高く、希望する職種に応募しても不採用が続き、気持ちが落ち込んでいる。何か役に立つことがしたい。いずれは就職したいとの思い
- C社とDさんのマッチング
→敷地内の草刈り、草集め
担当者からの評価は高く、当初は1時間600円から始まった対価も終了時には800円に「また、ぜひお願いしたい」との声
- Dさんの気持ちに変化
→再就職に向けた気持ちが再燃し、求人登録を行い、再就職につながった。

事業受託者としてのお思い①

- 平成28年から生活支援体制整備事業を受託し、地域包括ケアシステムの構築の一翼を担っている
- 困りごとを聞き、解決できる仕組みを作りたいと思っても、地域が疲弊している現状において、住民が主体的に活動することは難しい状況。参加者と一緒に自分たちにできること（オリジナルバス新聞の作成や買い物ツアーなど）を行ってはいるが、その場限りの活動になっており、協議体を開催することが目的化してしまっている現状がある
- 嘉麻市が、地域共生社会の実現に向けて目指す目標や環境整備と、生活支援体制整備事業はどのように位置付けられているのか、また、ゴールはどこなのか。この事業がどれくらいできているのかが分からない。霧の中をさまよっているような状況

事業受託者としてのお思い②

- 地域には
身寄りがない、年金だけでは生活が苦しい、ご近所との関係が希薄、自宅がごみ屋敷状態になっているなど…様々な課題を抱える高齢者がいる
- 分野や世代を超えて複合的な課題を抱える世帯も
ヤングケアラー、ダブルケア、貧困、子どもや障がい者への虐待、いじめ、不登校、差別や偏見、8050、空き家問題など

事業受託者としてのお思い③

- 嘉麻市社協は、総合相談からの地域づくりを核として、「包括的な支援体制の整備」の一翼を担いたいと考えている
- 認知症になった後の事を心配する身寄りのない方からの相談が多く、任意後見制度（移行型）に取り組みたい
- 委任契約と任意後見契約、死後事務委任契約を一体的にした**かま老後の安心サポート事業**
- 権利擁護のための中核機関の設置は？重層的支援体制整備事業は？
- 将来に向けた行政としての青写真が必要ではないでしょうか？